

**パトリック・ジョーダン氏**

日本コカ・コーラ株式会社 ジャパン&amp;コリアオペレーティングユニット 人事本部長

**徳永 久志氏**日本コカ・コーラ株式会社 ジャパン&コリアオペレーティングユニット 人事本部  
ストラテジック ビジネスパートナー

## 「ランゲージ・アカデミー」導入事例

——英語力の向上でグローバルなキャリアアップを支援する  
日本コカ・コーラ株式会社様

コカ・コーラ社は世界中で愛されている飲料メーカーの一つである。早くからグローバル展開を進めており、日本では大正時代にコカ・コーラが販売され、1957年には日本支社が設立された。日本コカ・コーラ株式会社ではノンジャパニーズスピーカーとのコミュニケーションが日常的に起こり、英語力は必要な能力の一つとなっている。特に日本を飛び出し、グローバルなキャリア形成を目指すならなおさらだ。

加えて2021年にはグローバルで組織変更を行い、日本と韓国が一つの組織(オペレーティングユニット)となり、業務上で英語の重要性がますます高まった。同社では社員の英語力の向上、良質な学習機会の提供を目的にgoFLUENTの「ランゲージ・アカデミー」を採用する運びとなった。

これを受け今回、日本コカ・コーラ株式会社 ジャパン&コリアオペレーティングユニット 人事本部長 パトリック・ジョーダン氏、日本コカ・コーラ株式会社 ジャパン&コリアオペレーティングユニット 人事本部 ストラテジック ビジネスパートナー 徳永 久志氏に「ランゲージ・アカデミー」導入の背景や活用方法をはじめ、今後の展開や期待などをお伺いした。以下にレポートする。

# 2021年に日韓で組織統合され、 英語力の必要性が高まった

— まず簡単に貴社の事業の特徴と、人材育成の方針をお聞かせください。

**パトリック・ジョーダン氏(以下、ジョーダン氏):**

当社は世界中で活動する飲料メーカーです。世界中で愛されるブランド作りを心がけています。単に美味しいものを提供するだけにとどまらず、「我々の製品を通して、世界中をうるおし、さわやかさを提供し、そして

前向きな変化をもたらすこと」を目指しています。ビジネスで成功するのはもちろん、ビジネスを通じて得た利益を世界や人々に還元したいとの思いを持っています。人材はこれからの成長の礎として非常に重視しており、以下の4つの指針を掲げています。

1. 成長を支援すること、可能性を伸ばすこと
2. キャリアプラン実現を支援すること
3. ダイバーシティ&インクルージョン
4. サービスを通して素晴らしい体験をもたらすことです。

— 人材育成はどのようなことを行っていますか。

**ジョーダン氏:**例えば、リーダー育成の研修があります。具体的には、アトランタで1週間の日程を組み、ビジネスをリードする方法、自分自身の管理、メンタルに関することなどを学びます。リーダー育成は特に力を入れており、日韓で同様のプログラムを行ったこともあります。ただし、今はコロナ禍で実地の研修が行いにくくなっており、新しい研修のあり方を模索しているところです。



— 社員のキャリアについてさらに詳しくお聞かせください。

**徳永 久志氏(以下、徳永氏):**コカ・コーラ社では、「社員自身がキャリア形成の担い手であり責任を持つ」との方針のもと、一人ひとりのキャリアプランの実現に向け世界共通の仕組みやツール・機会を設けています。上級管理職を除くすべてのオープンポジションは公募さ

れ、全世界の社員が応募することも大きな特徴と言えるでしょう。上司は部下と月または週ごとに1on1ミーティングを実施し、その中では業務の進捗や業績達成の道筋等について話し合うだけでなく頻繁にキャリアについて話し合いをしています。

— その中で、英語教育はどのような意味があるのでしょうか。

**ジョーダン氏:**先ほど掲げた4つの指針を実現する上で、英語力が欠かせません。日本を含めてコカ・コーラ社はグローバルで事業展開しています。このため、日本法人のスタッフが海外で活躍する上で共通言語の英語が必須になるからです。また、日常的な業務に目を転じてみても、世界中の社員と連携しながら業務を進める機会が多く、加えて2021年には日本と韓国が一つの組織として動き始めました。同じチームにノンジャパニーズの上司や韓国にも上司や同僚がいるのが当たり前の環境となり、コミュニケーションを取る上でも英語の重要性は更に高まっています。

## goFLUENTを英語学習のパートナーに

— 貴社ではこれまでも英語の必要性は少なからずあったと思います。研修制度などはなかったのでしょうか。

**徳永氏:**英語学習の要望は過去から常にありました。ただ従来は、全社的に研修プログラムを設けることなどはせず、個々の部門がそれぞれの部門予算の中から研修費を捻出していました。お伝えした通り日本と韓国の組織が統合され全従業員にとって英語を使用する機会が増えたことをきっかけに、会社全体として提供できる英語トレーニングのプログラム導入を検討しました。

— 数あるラーニング・プラットフォームの中で、goFLUENTの「ランゲージ・アカデミー」を導入されました。その理由を教えてください。

**徳永氏:**過去に担当部門で英語学習のニーズがありトレーニングを検討していた際に、goFLUENTからお声がけをいただきました。実は私が以前勤めていた会社でgoFLUENTを導入した経験があり、社員の英語力に著しい向上が見られました。今回、改めてお話を伺いし、ビジネス英語に関する豊富なコンテンツがあることと、使いやすいラーニングシステムがあることがわかりました。初めは私が担当している一部の部門で利用していたのですが、日本と韓国が一つの組織になるにあたり、全社利用に拡大しました。

コカ・コーラ社では自分のキャリアを築く中で、これまでの経験や自身の能力を英語でアピールできることがとても大事になります。そのため、一人ひとりのニーズや基礎力に合わせて、英語力を高める必要があります。goFLUENTはそれが実現可能な機能を備えていました。また、当社の要望もよく理解いただいていたので英語教育のパートナーとして一緒に社員により良い英語教育とそ

の環境を提供できると思い、導入を決めました。

英語でのコミュニケーション頻度が高い方には、必要に応じてブレンド型学習を取り入れることにより、社員一人ひとりに専属のラーニングコンサルタントがつき、学習のアドバイス、スケジュール管理のサポートを受けることができるので、非常に有用性が高いと感じています。

——研修の対象者はどのように選抜されているのでしょうか。

**徳永氏:** 基本的には立候補制です。やる気があって自ら受講したいという意志を持つ社員が優先されます。また、活躍が著しく海外を舞台にしてもらいたい社員には、会社側から声をかけることもあります。学習はそれぞれ個別で進めます。会社側から何かを強制することはありません。あくまで個人の取り組みを重視します。



——徳永さん自身もお使いになっているとお聞きしました。

**徳永氏:** はい。自分のニーズに応じたトレーニングを受けられるので、とても学習しやすいと感じています。オンラインの学習スタイルの中で、口頭のコミュニケーションのみならず、チャットツールなどを利用しながら文書表現のアドバイスをもらえるのもうれしいですね。

——社員の方へはどのような学びを期待しますか。

**徳永氏:** ほとんどの社員は、日常的な会話やメール文などは概ね理解できます。一方で、仕事の場面で自由に英語を使える社員は限られています。例えば、大きな会議で発言したい場合にはどのような切り出し方をすれば良いかなど実践的なトレーニングが受けられます。goFLUENTの教材はその点までしっかりと教えてくれます。今後、特に日本人がグローバルに働く上で英語力という非常に重要な力を伸ばすことができるでしょう。導入して間もない段階ですが、外国人マネジメントから「〇〇さんの英語力が上がった」というコメントを受けることもあり、効果も実感できています。



## 【トピック】学習者の声 ビジネスで実際に使える英語が学べる

徳永氏のほか、実際にgoFLUENTで学習を進める社員2名の方にもインタビューを実施。ここでは特別トピックとして、その内容(学習の目的や使ってみての感想)をお届けする。



今西 周氏

——まずは簡単に現在のお仕事内容を教えていただければと思います。

マーケティング部門のIMXという部門で、ブランディング・デザイン、デジタルプラットフォーム、メディア&プロモーションプランニング、コンテンツプロダクション、マーケティングアセットなど、各ブランド・製品における消費者体験やコミュニケーションキャンペーンを開発し、市場実行する部署を統括しています。

——これまでどのように英語学習をされてきましたか。

海外留学や赴任の経験はないので、個人で英会話のレッスンを受けた程度です。どちらかというと、毎日の仕事を通じ学んでいたというのが実情です。

——実際に使ってみての感想を教えてくださいませんか。

ユーザー向けのコンテンツが大変充実していると感じました。私の業種に限らずさまざまな分野の記事やビデオが学習素材としてあります。難易度も多様な設定があり、個人が学習に取り組みやすい環境が作られています。

——学習の時間をどのように充てているのでしょうか。

現在、平日のスケジュールと仕事量ではコンスタントに学習時間をとることができない状況ではありますが、当社にはプレミアムフライデーと銘打った制度があり、金曜日の15時半以降、自由に時間が使えるようになっています。その時間にレッスンを入れるようにしています。

——そもそもなぜ英語力を伸ばそうとされたのでしょうか。

近年、世界の関連セクションとの協働プロジェクトやコミュニケーションが急激に増えており、ミーティング、メール、書類作成などは英語を使用しています。一方で、私には海外留学や赴任の経験がなく、英語力に限界を感じていました。特に会議やプレゼンテーションの場で十分なコミュニケーションが取れる、自分の考えや意見を正しく伝えるという点に課題を感じていました。

——仕事を行う上で変化はありましたか。

はい。毎日のコミュニケーションでより適切な言い回しや表現ができるようになってきていると実感しています。

### 韓国の学習者

——まずは簡単に現在のお仕事内容を教えていただければと思います。

財務や顧客向け財務分析を行っています。

——これまでどのように英語学習をされてきましたか。

学校で英語を学び、また、カナダに交換留学生として赴いた経験があります。あとは日々の勤務を通じてより深く学んでいます。

——goFLUENTを使ってみての感想を教えてくださいませんか。

新しい表現を学ぶことができたのに加え、自分がやっと思い間違いを知ることもできました。よく使っている教材は、ビデオクリップやニュース記事、ボキャブラリーなどです。さまざまなビジネスシーンに応じた教材があり、非常に役に立っています。しかも、教材に関して疑問が出てきたら、1on1のディスカッション形式で質問できる点も気に入っています。このほか、自分のメールをコピー＆ペーストしてフィードバックをもらうライティングのレッスンも利用しました。

——学習時間をどのように充てているのでしょうか。

金曜日は15時以降に退社できるので、その時間を学習に充てています。通常は1on1トレーニ

ングを受けています。毎回、宿題を課せられるので、次の授業の前に終わらせるようにしています。宿題に取り組むことで、意識的により多くの時間を英語学習に使うようになりました。

——そもそもなぜ英語力を伸ばそうとされたのでしょうか。

チーム内で韓国人は私一人で、チームメンバーと打ち合わせをする時は必然的に英語を使うことになるからです。財務チームリーダーに英語でプレゼンをする機会もあります。

——仕事を行う上で変化や効果を実感することはありましたか。

仕事でプレゼンテーションを行うことになった際、1on1の授業の中で、本番に向けたレッスンを受けることもできます。表現の誤りを直してもらえるので、自信をもって本番に臨むことができるようになりました。

## グローバルの主要なポジションで活躍する社員の輩出を目指す

——英語力向上を含め社員育成について、今後の展望を教えてください。

**徳永氏:** コカ・コーラ社には能力開発について70:20:10のモデルがあります。この意味するところは、70%はExperience——仕事などを通じた経験で、20%はExposure——コーチング・フィードバック・メンタリングなど他者との関わりで、10%はEducation——フォーマルな研修やトレーニングの機会学ぶ、というものです。英語教育は10%の領域のものとも捉えられますが、英語力を高めることができれば、ExperienceやExposureの質や量が飛躍的に高まります。その意味で、英語力はビジネスにおける能力開発の基礎の一つであり極めて重要性が高いです。goFLUENTからもアドバイスをもらいながら、まずは全社的な英語力の底上げを目指します。

**ジョーダン氏:** 今はビジネスそのものの変化しています。研修のあり方も当然変えていかねばなりません。英語力の重要性は変わりません。特に日本の社員がグローバルにリーダーシップを発揮していく場合にはどうしても必要になるのです。

**徳永氏:** ここまでは社内の話が中心でしたが、例えば、現在は他の会社に勤めている方の中にも、コカ・コーラ社で



キャリアを築きたいと思ったださる方もいると思います。一方で、英語力を心配し応募に二の足を踏むケースも見受けられます。当社でも全員英語ができるわけではありませんし、入社してからもgoFLUENTのプログラムで自分に合ったレベルから英語力の向上が目指せます。私たちは英語力のあるなしだけで人材の能力を判断することはありません。ぜひチャレンジしたい方がいたら遠慮なくお声がけください。意欲のある方に門戸は広く開けています。

——最後に日本法人の社員への期待をお聞かせください。

**徳永氏:** 日本法人には優秀な社員が大勢います。グローバルの主要なポジションで活躍する社員を一人でも多く輩出するのが、私たちの使命の一つです。

**ジョーダン氏:** それぞれの国や地域には特性がありますので、日本人だからわかることも、できることもあるはずです。日本人がグローバルで活躍することは、コカ・コーラ社のダイバーシティが高まることになります。全員に世界を目指してほしいということではありませんが、チャンスは平等に提供したい。世界を目指す社員にはぜひ世界を目指してほしいのです。そのためには英語力が必須で、goFLUENTとのパートナーシップは非常に重要な意味を持つと確信しています。





## (まとめ)

日本コカ・コーラ株式会社様の導入事例をお届けした。社員一人ひとりが思い思いに学習プログラムを選択し、スケジュールリングできる点が、同社の働くスタイルなどとマッチしていたようだ。一人ひとりの学びをサポートするラーニングコンサルタントの存在も、英語力向上に大きな役割を果たしていた。

goFLUENTは英語学習のパートナーとして、日本コカ・コーラ株式会社様を強力にバックアップする所存だ。

### goFLUENTについて

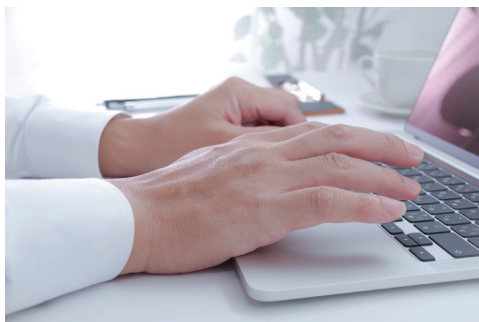
goFLUENTは、世界中の150カ国で展開する受賞歴のあるデジタル語学学習ソリューションです。テクノロジー、コンテンツ、ヒューマン・インタラクションを融合し、ハイパー・パーソナライズされたソリューションを、場所を問わず、あらゆるデバイスで利用可能にして提供することで、語学学習を加速します。現在、100カ国以上、1,000社以上のグローバル企業の人材開発(L&D)リーダーは、goFLUENTのソリューションに信頼を寄せ、自信を獲得し、キャリアの成長を促進し、よりインクルーシブなグローバル文化を確立するために必要な語学スキルの習得を加速させています。

お客様事例は以下よりご確認ください。

<https://www.gofluent.com/jp-jp/client-stories/>



当社のサービスに興味を持った企業様はぜひ下記までお気軽にお問い合わせください。



#### ■問合せ先

goFLUENT株式会社

<https://www.gofluent.com/jp-jp/>

TEL: 03-5962-3959

Email: [jpmarketing@gofluent.com](mailto:jpmarketing@gofluent.com)